

ライラック祭

5月25日から29日にかけて大通公園で行われていた、恒例のライラック祭が終わりました。公園内では、様々なイベントが行われ、大変賑やかでしたが、今は、大通公園も一時の喧噪から解放された感があります。

ライラック祭は、札幌市民にとっては、いよいよ本格的な夏の到来を告げるもので、何となく華やいだ気分させられます。

大通公園は、私のオフィスのすぐそばですので昼休みなどよく行くのですが、花壇が整備されていてチューリップを初め様々な花が咲き乱れ、また、幼い子どもたちが広々とした芝生の上を走り回っている、そうした姿をベンチに座って眺めていると気持ちが和みます。

ライラックは、もともと、バルカン半島、アフガニスタンなどが原産地だそうですが、北海道に渡ってきたのは、明治22年に、北星学園の前身であるミス女学校の創始者サラ・C・スミス先生が、故郷アメリカから持ってきて植えたのが初めだそうです。その後札幌に広く広がり、昭和35年には札幌市民の投票によって「札幌の木」に選ばれています。

ゴンドラの唄で知られる歌人「吉井勇」が昭和30年、旅の記念に
家ごとに

リラの花咲き札幌の

人は楽しく 生きてあるらし

と詠んでいます。その歌碑は、大通公園西4丁目の木陰に今も静かに佇んでいます。

ポトマック河畔に植えられた桜がアメリカの人々に親しまれているように、遠くアメリカから渡ってきたライラックは、今では、札幌市民の生活に溶け込んでいます。

大通公園には、現在約400本のライラックが植えられており、大半は紫系の花が咲いていますが、白い花を付けているものも稀に（30本ほど）あるそうです。このライラックの花言葉、白い花は「年若き無邪気さ、青春の喜び」、紫の花は「恋愛のはじめての喜び」ということだそうです、いずれの花を見ても、私には、思い出そうとしても思い出せない、遙か彼方の夏霞です。

（塾頭 吉田 洋一）